

特集に当たって

昭和 24 年 6 月 1 日に大蔵省の総合出先機関として財務局が発足しましてから 60 周年を迎えたことは、誠に感慨深いものがあります。

財務局の発足当時、戦争により我が国国土は著しく荒廃し、経済も疲弊しており国民生活も大変厳しい状況にありました。私は昭和 30 年 4 月に大蔵省に入省し、32 年 5 月から関東財務局管財部物納財産課で、翌 33 年 6 月から同局総務部総務課で勤務したほか、35 年 11 月からは大臣官房地方課でも勤務し、地方財務行政の当時の苦労は実際の勤務経験を通じて、良く知っています。

その後も、我が国は、様々な試練に直面しましたが、国民のたゆまぬ努力と創意により、その度にこれを乗り越え、今日の日本を築き上げてきました。この間、財務局では現場の第一線において財政、金融、国有財産、経済調査等の業務を通じて地域経済との関わりを深めていくとともに、その時々における社会経済情勢の変化に応じた様々な行政需要に積極的に取り組んできたところです。ここに、今日まで財務行政に対して深い御理解と御支援を賜りました関係各位に心より感謝申し上げます。

財務局におきましては、財務省と地方の連絡役としてこれまで以上に地方の状況を的確に把握し、地域から信頼される財務省の総合出先機関としてその使命を全うするため、一層の工夫と努力を積み重ねてまいりたいと存じます。

本特集は、財務局発足 60 周年を記念したものでありますが、21 世紀における財務行政の在り方を考察するうえでも、地域における財務局の役割を確認することは、誠に意義深いものと考えます。これにより、財務行政に対する御理解を一層深めていただければ幸いです。

平成 21 年 12 月

財 務 大 臣

藤 井 裕 久

